

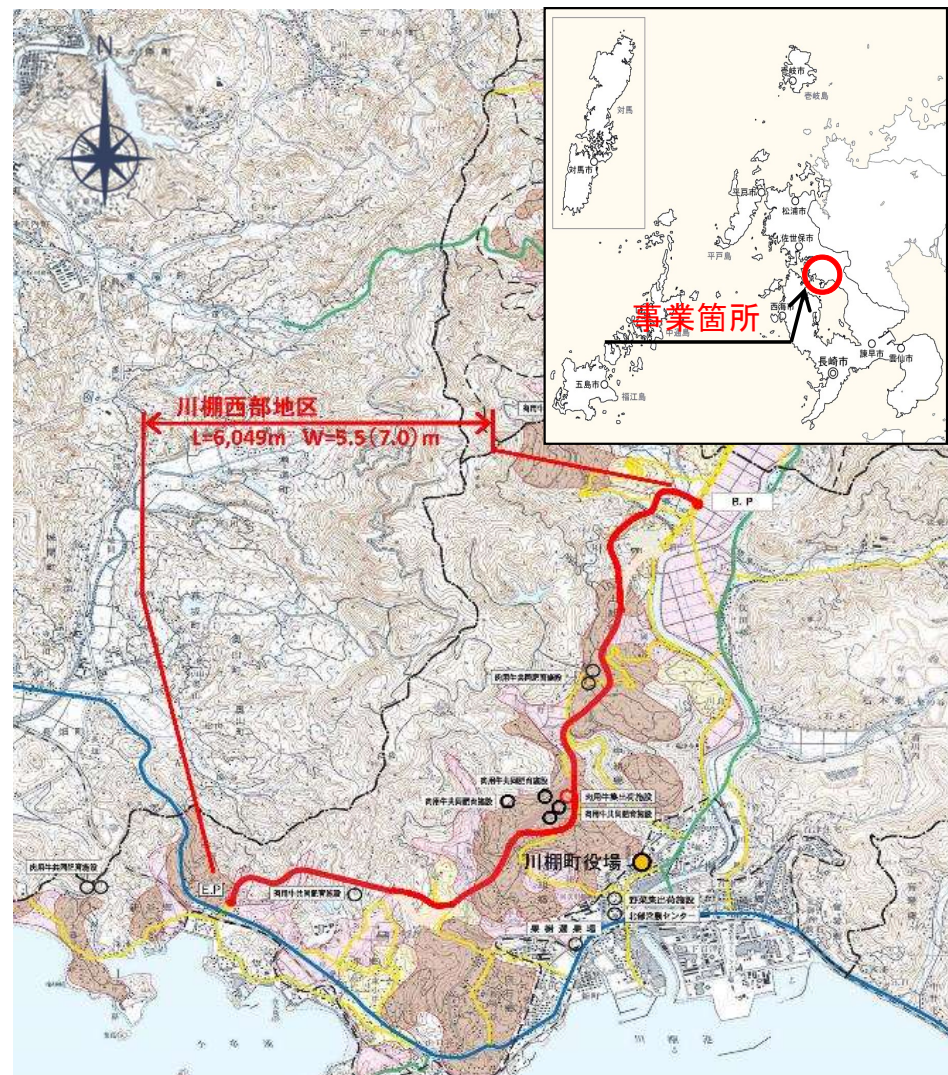
令和7年度 第1回 長崎県公共事業評価監視委員会

再評価対象事業

農整一2 地方創生道整備推進交付金
川棚西部地区

事業主体 長崎県

再評価
の理由 再評価後5年経過
(事業費・工期)



1. 審議経過

審議経過	再評価の理由	工期		事業費 (億円)	B / C	概要
		着工	完了			
当初 (H22新規)		H22	H30	49.3	1.21	【工事概要】 延長=5.8km 幅員=5.5(7.0)m
土地改良法 手続き 【第1回 計画変更】 (H28)	【重要な変更】 事業費10% 以上の増減	H22	R6	73.6	1.04	【工事概要】 延長=6.0km 幅員=5.5(7.0)m
前回再評価 (R2)	事業採択後 10年経過	H22	R6	80.0	1.02	【工事概要】 延長=6.0km 幅員=5.5(7.0)m
土地改良法 手続き 【第2回 計画変更】 (R5)	【重要な変更】 事業費10% 以上の増減	H22	R8	108.9	1.03	【工事概要】 延長=6.0km 幅員=5.5(7.0)m
第1回審議 (R7)	再評価後 5年経過 (事業費・工期)	H22	R8	108.9	1.03	【工事概要】 延長=6.0km 幅員=5.5(7.0)m

2. 目的・事業概要・これまでの経緯

至 佐世保市

◆目的

川棚町の中山間地帯を横断する基幹的な農道の整備により、農畜産物や生産資材の輸送の合理化を図るとともに、畜産農家と耕種農家の連携による農畜産物の品質向上と農業所得の安定を図る。

主要地方道川棚有田線

水田地帯

稲わらの運搬状況(供用区間)

耕種部門と畜産部門の連携強化

畜産資材等の輸送の合理化

ハウステンボス

畜産団地

中山間地帯

畜産団地

国道205号線

3

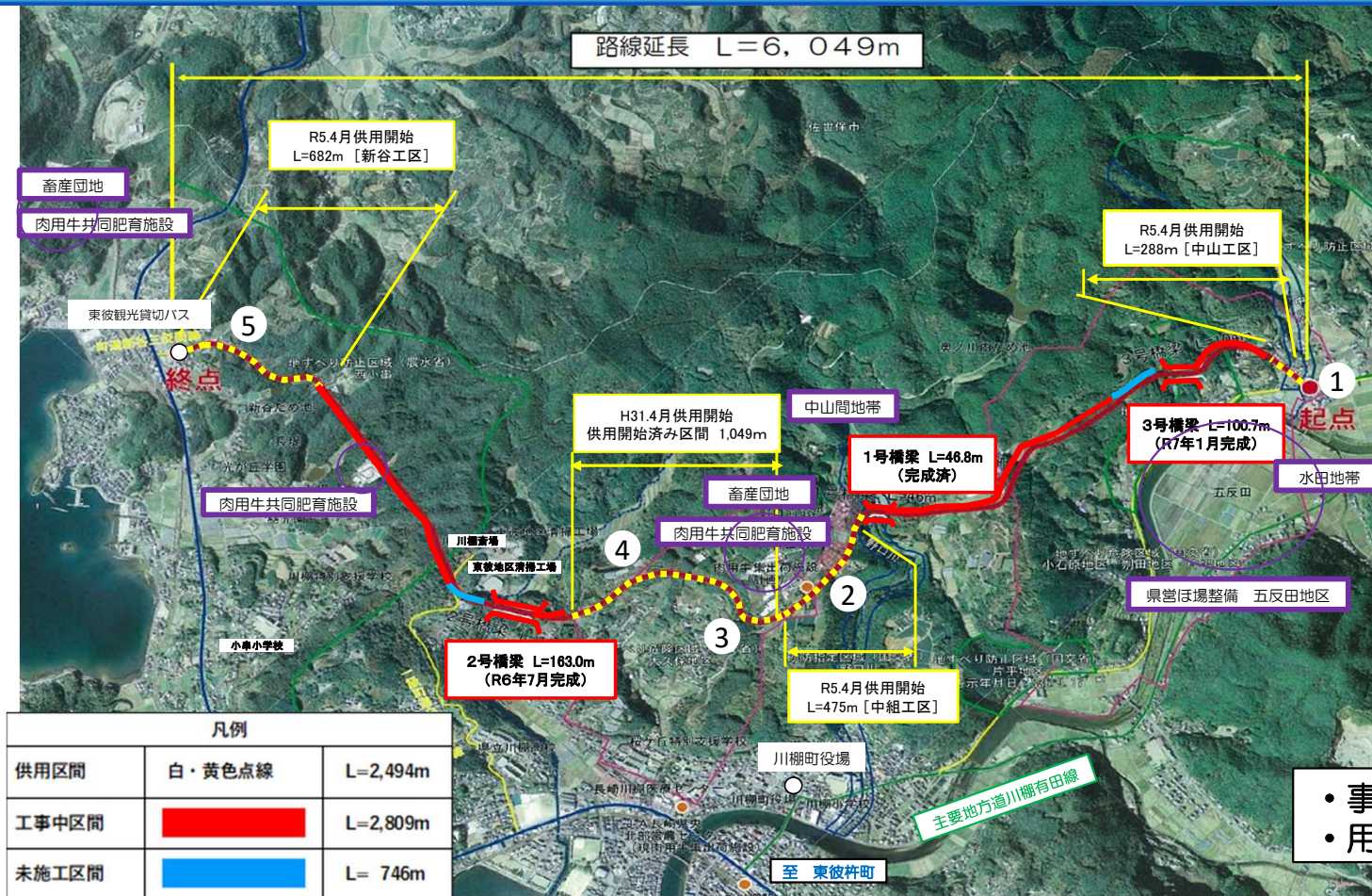
稲わらの運搬状況(現況)離合困難

肉用牛の出荷状況(現況)離合困難

凡	例
—	市 町 村 界
—	広域営農団地界
—	受益地界
—	基幹農道(計画)
—	他 部 門 施 工
—	水 普 通 畑 地
—	樹 園 地
○	農業施設(既設)
○	" (計画)
—	国 道
—	主 要 地 方 道
—	一 般 県 道
—	市 町 村 道

至 東彼杵町

2. 目的・事業概要・これまでの経緯



◆事業概要

- 道路延長L=6,049m (うち橋梁3箇所 L=311m)
- 道路幅W=5.5(7.0)m 2車線
- 事業工期H22~R8
- 総事業費10,890,000千円 (R7時点)

◆これまでの経緯

- H22 事業着手
- H24 用地買収着手
- R1 用地買収完了
- R1 供用開始 L=1,049m
- R5 供用開始 L=1,445m

- 事業進捗率 76% (事業費ベース)
- 用地費 100% (面積ベース)

川棚西部地区 供用開始区間状況写真



3. 事業の効果・必要性

- ①中山間地帯の畜産団地からの基幹的な輸送ルートが確保され、農畜産物及び生産資材の輸送合理化により、畜産農家の経営規模拡大が可能となる。
- ②川棚川流域の水田地帯へのアクセス向上により、畜産農家(中山間地帯)と耕種農家(水田地帯)との連携による有機物資源の地域内供給体制を確立し、広域的なまとまりのある農業生産地域の発展に寄与する。



堆肥の生産

②水田地帯への堆肥の供給

基幹農道 川棚西部地区

中山間地帯

畜産団地

畜産団地

川棚町役場

中心市街地

川棚駅

国道205号

現況運搬ルート

計画運搬ルート

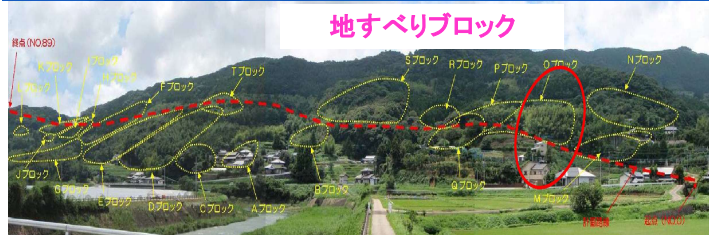


稲わらの運搬状況(供用区間)

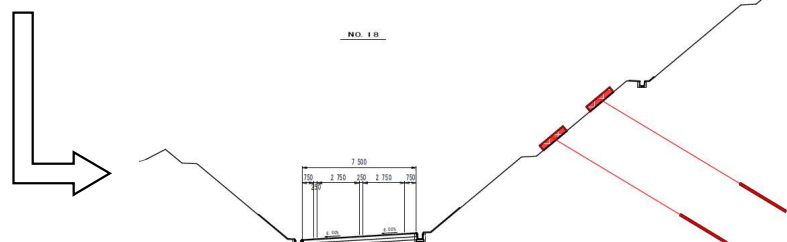
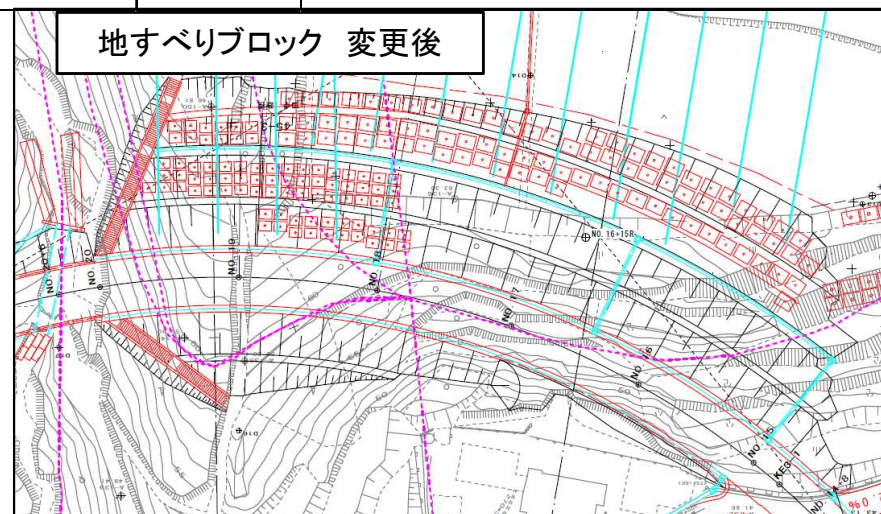
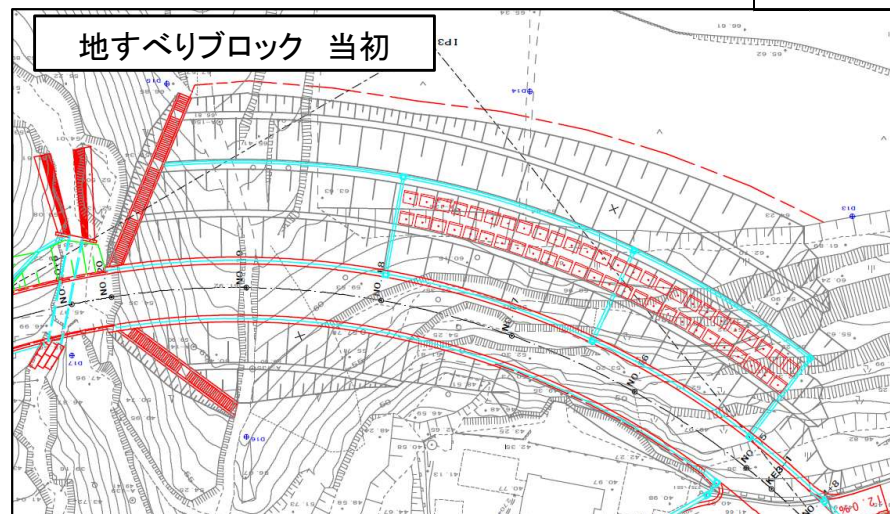
②畜産団地への稲わらの供給

①走行経費の節減

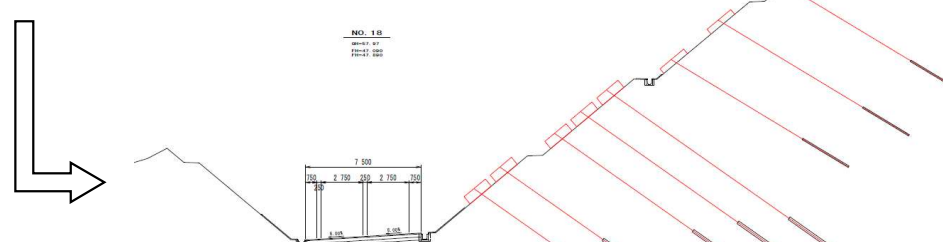
4. 事業の進捗状況(事業費の増)



事業費増の内容		増額	主な増額理由
1	地すべり対策工の追加	約9.8億円	地すべり発生に伴う調査、設計、対策工の追加
2	地盤改良の追加	約2.4億円	盛土材の土質が悪く石灰改良を追加
3	盛土工法の変更	約6.3億円	基礎地盤が弱く補強土壁工から軽量盛土工へ変更
4	その他	約10.4億円	労務費や資機材の価格上昇
計		約28.9億円	



地すべりブロック(当初) : アンカー工 52基

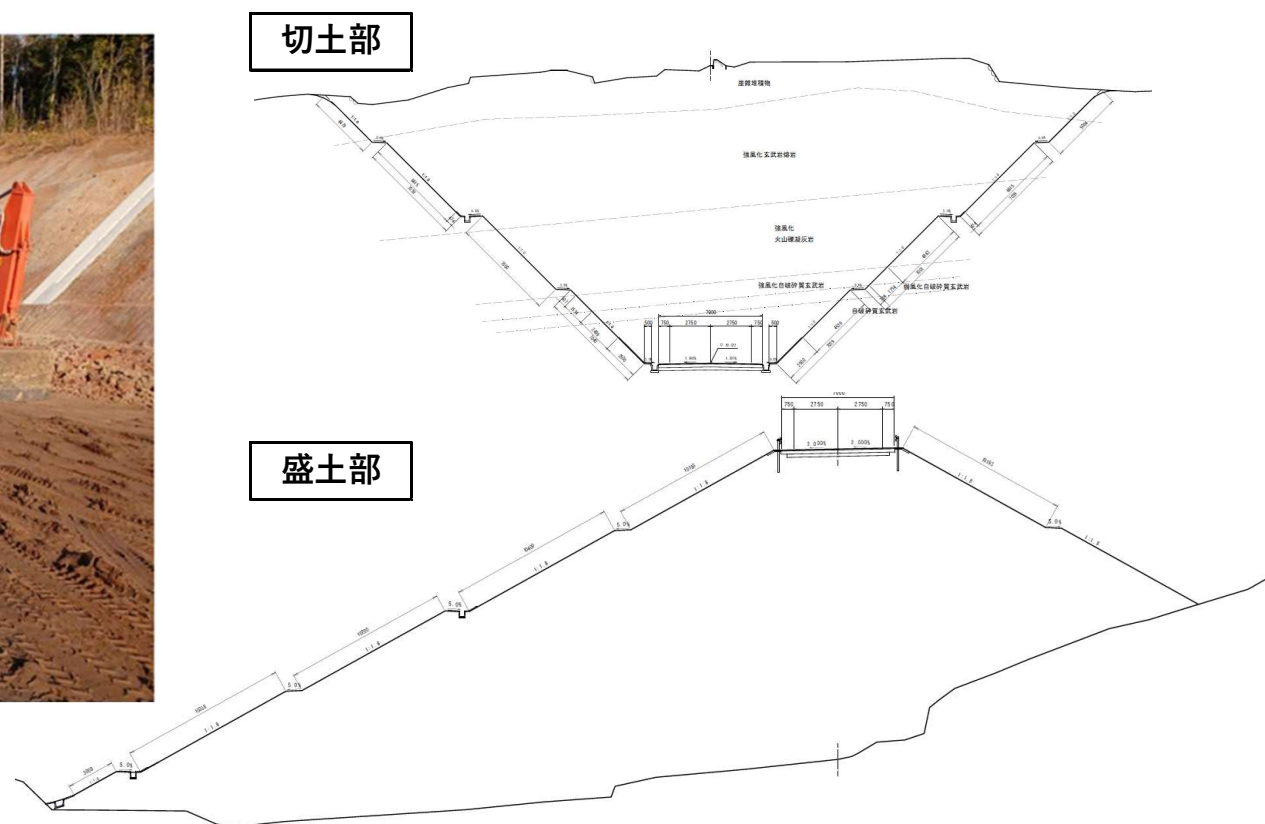


地すべりブロック(変更後) : アンカー工 168基

当初想定していなかった地すべりブロックの活動を確認。そのため、調査観測及び詳細設計、対策工を実施する必要が生じ事業費が増額となった。

4. 事業の進捗状況(事業費の増)

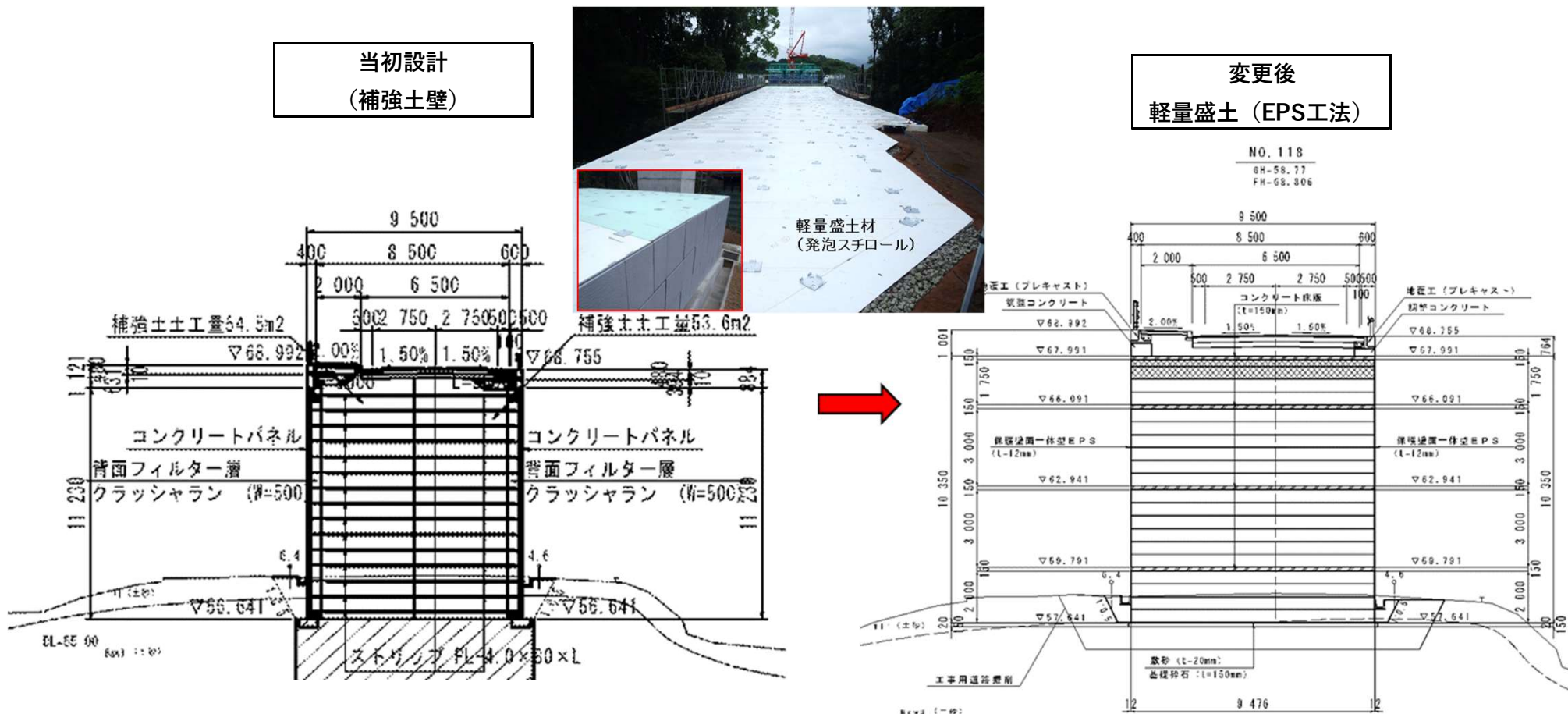
事業費増の内容		増額	主な増額理由
2	地盤改良の追加	約2.4億円	盛土材の土質が悪く石灰改良を追加



切土を盛土部へ流用する計画であったが、一部の土砂において含水比が高く、路体盛土として必要な締固めができない土質であることが判明し、石灰による地盤改良が必要となり、地盤改良にかかる事業費が増額となった。

4. 事業の進捗状況(事業費の増)

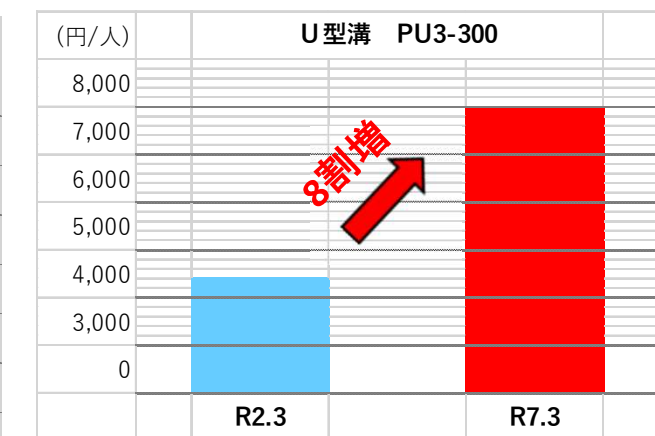
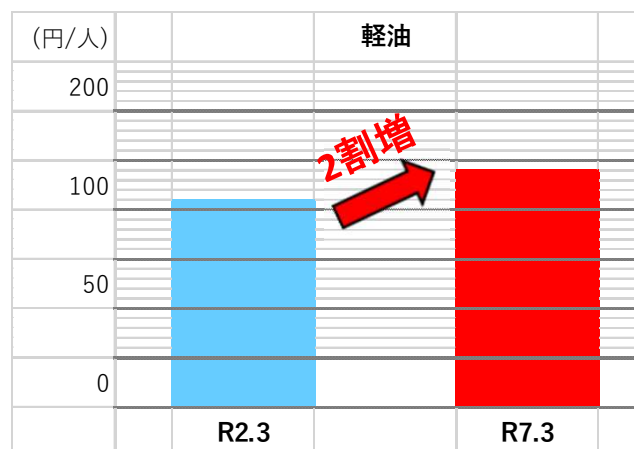
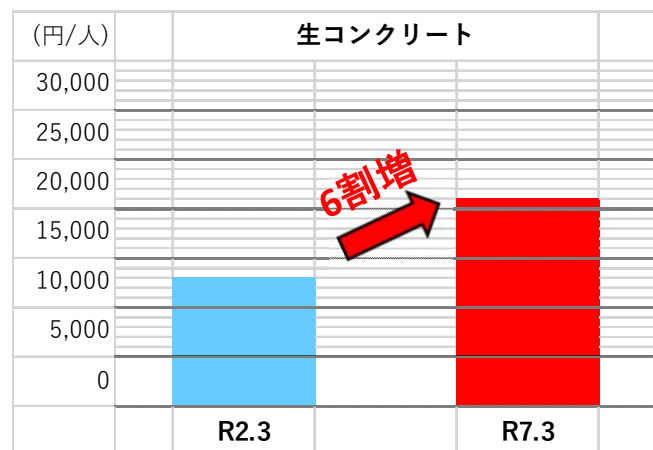
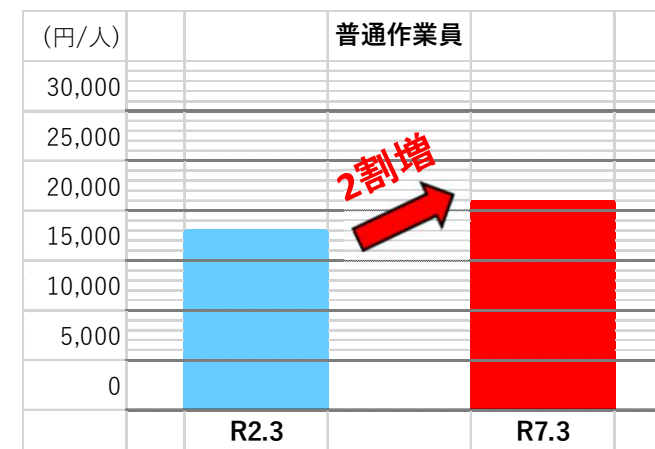
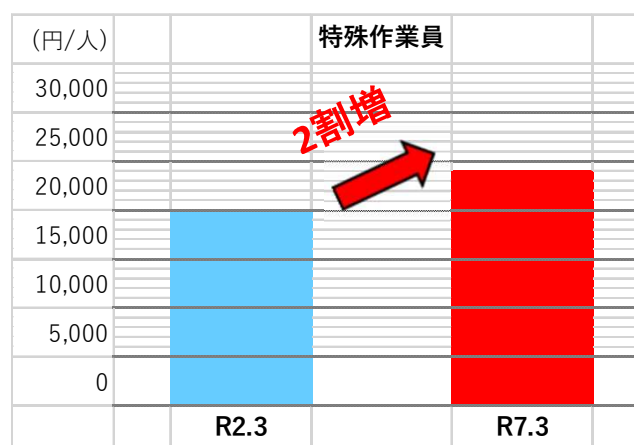
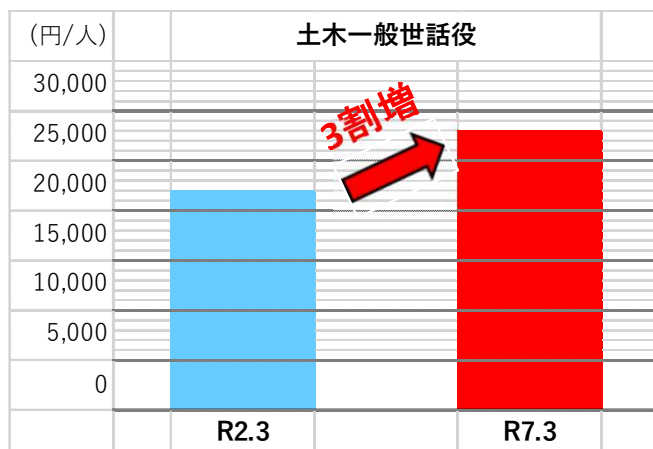
事業費増の内容		増額	主な増額理由
3	盛土工法の変更	約6.3億円	基礎地盤が弱く補強土壁工から軽量盛土工へ変更



工事施工前に基礎地盤の強度試験を実施した結果、当初予定していた補強土壁工法では基礎地盤の支持力が不足することが判明し、軽量盛土工法（EPS工法）に変更したことにより事業費が増額となった。

4. 事業の進捗状況(事業費の増)

事業費増の内容		増額	主な増額理由
4	その他	約10.4億円	労務費や資機材の価格上昇



4. 事業の進捗状況(事業期間の見直し)

【完了工期】R6(前回)→R8(今回)

- ・当初想定していなかった地すべりブロックの活動を確認。その調査観測及び詳細設計、対策工に不測の日数を要したことから事業期間を2年間延長する。

前回									
	H22～H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6		
測量設計									
用地買収									
農道工									
舗装工									

今回									
	H22～H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8
測量設計									
用地買収									
地すべり変動確認（追加）									
地すべり調査・設計（追加）									
地すべり対策工事（追加）									
農道工									
舗装工									

調査・設計（約1年）

調査・設計（約1年）

地すべり調査観測・詳細設計・対策工事に伴う農道工完成遅延（約2年）

5. 上位計画への位置付け・関連事業の状況

第3期 ながさき農林業・農山村活性化計画では、

I 次代につなげる活力ある農林業産地の振興

I－3 産地の維持・拡大に必要な生産基盤、加工・流通・販売対策の強化

① 大規模化・省力化を支える生産基盤整備、農地集積及び森林施業集約化の加速化
において、「川棚町においては、農産物輸送の効率化を図るための農道整備を推進します」と記載があり、農道整備の推進が位置付けられている。

①大規模化・省力化を支える生産基盤整備、農地集積及び森林施業集約化の加速化

- 県央地域を中心とした水田地帯においては、集落での話し合いをもとに地域の将来像を描いた人・農地・産地プランの実現に向けて、農地中間管理機構と連携し、集落営農法人などの担い手への農地集積・集約化を加速化するとともに、畦畔除去などによる区画拡大や暗渠排水整備による水田の汎用化・畑地化を推進します。
- 西彼杵半島などの樹園地や畑地帯においては、耕作条件が厳しく、高齢化も進み、荒廃農地も多い状況であり、産地を維持して行くため、農地の基盤整備を実施し、荒廃農地解消と併せて優良農地を確保するとともに、品質の安定・収量の向上を目的として、畑地かんがい施設整備を推進します。また、農地中間管理事業を活用した担い手の確保と育成、地域外の法人などの参入を推進します。
- 川棚町や諫早市伊木力地域においては、農産物輸送の効率化を図るための農道整備を推進します。



樹園地の基盤整備（西海市白崎地区）
（上段：実施前、下段：実施後）

（令和3年3月策定 第3期ながさき農林業・農山村活性化計画）2021-2025

6. 社会経済情勢等の変化

○耕種農家と畜産農家との連携による有機物資源の地域内供給が進んでいる。

○耕種

①経営体育成基盤整備事業

五反田地区(H24完了)

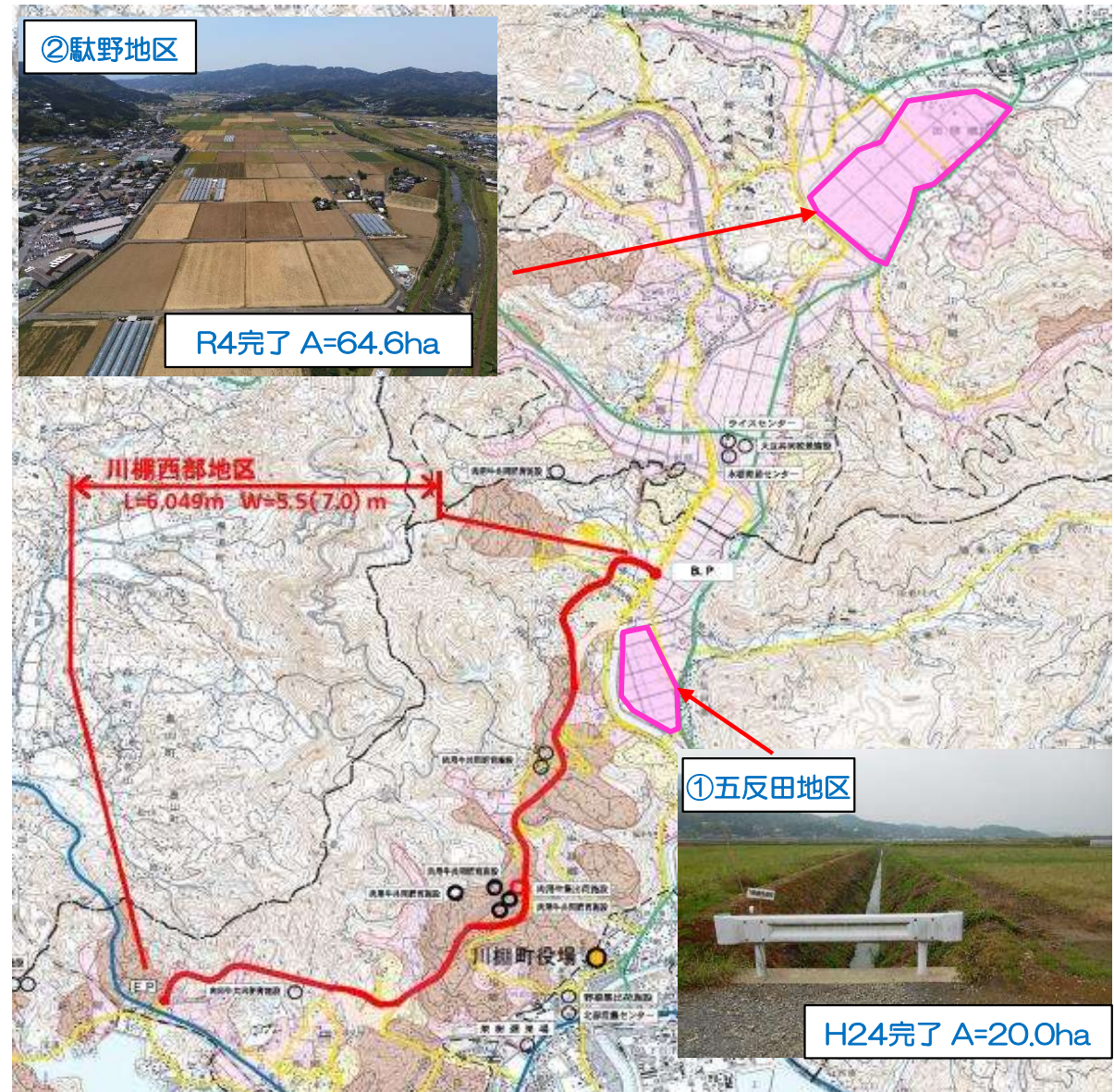
②農業競争力強化基盤整備事業

駄野地区(R4完了)

川棚町、波佐見町の水田区画整理が完了し、担い手への集積が加速している。

○畜産

H24全国和牛共進会で川棚町で生産された肥育牛が日本一となった。品質の高い「長崎和牛」をPRするため独自ブランドを立ち上げる等、積極的な取組みがなされている。肉用牛の飼育頭数も増頭しており、積極的に振興を図っている。



7. 地元等の意向

①受益者

地元関係者により、川棚町基幹農道建設促進協議会が平成21年1月に設立されており、地元及び関係機関が一体となって事業推進を図っている。本地区の早期完成を毎年強く要望されており、地元の合意形成も図られている。



基幹農道建設促進協議会開催状況
(R6.9.27)

②川棚町

本地区と町道の一体的な整備による効率的・効果的な道路網の整備が計画されており、早期完成が望まれている。

8. 事業の投資効果

◆ 費用対効果(B/C)

項目	前回評価 (令和2年度)	今回評価 (令和7年度)
全事業	1.02 = 92.5億円／91.1億円	1.03 = 142.3億円／137.2億円

〔費用〕

- ・農道整備に要する事業費(工事費、用地費)

〔便益〕

- ・農業交通及び一般交通に係る走行経費の節減、走行時間短縮

〔プラス要因〕

- ・R5交通量調査結果に伴う計画交通量の増加

〔マイナス要因〕

- ・事業費の増(地すべり対策工及び地盤改良工の追加、盛土工法の変更)
- ・工期の延長(新たな地すべりの発生による調査観測・設計・対策工実施)

〔その他の要因〕

—

9. 対応方針(原案)

- ◆中山間地帯にある畜産団地からの基幹的な輸送ルートが確保されることで、農畜産物及び生産資材の輸送が合理化され、畜産農家の経営規模拡大が可能となる。
- ◆また、水田地帯へのアクセスを向上させ、畜産農家と耕種農家の連携による有機物資源の地域内供給体制を確立し、農畜産物の品質向上と農業所得の安定を図る事業である。
- ◆事業進捗率は事業費ベースで約76%[82.7億/108.9億](令和6年度末)であり、用地進捗率は100%となっている。
- ◆地元の意向として、地元関係者で設立された、川棚町広域農道建設促進協議会により、合意形成が図られている。また、川棚町においても、町道の一体的な整備による効率的・効果的な道路網の整備が計画されており、本地区の早期完成が望まれている。
- ◆事業費の増額、期間の延長はあるものの、費用対効果が見込まれる。

